

トウカイナガレホトケドジョウ *Lefua tokaiensis* Ito, Hosoya et Miyazaki

【選定理由】

河川改修や砂防堰などの工事、道路整備などの開発、人工林の管理放棄などに伴う生息域の消失、減少、劣化が著しく、個体数が急激に減少していると推定される。

【形態】

体長 6cm。体はホトケドジョウに似るが細長く、頭部は縦偏し尾部は側偏する。口は吻端の下側にあり、4 対の口ひげがある (細谷, 2013)。1 対は、鼻孔から発達したものである。体色は、淡褐色であるが、なかには淡黒色のブチ斑がみられるものもある。吻部に暗色斜線がある。形態がホトケドジョウに非常に似ているものもいる。

【分布の概要】

【県内の分布】

矢作川水系左岸から豊川水系までの間 (岡崎市、豊川市、新城市、設楽町、東栄町)。

【国内の分布】

静岡県、愛知県。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の河川や谷沢を好み、他の魚類が生息できない水溜りのような源流域にも生息する。生息する沢の勾配は 4~20% である。生息地の川底は礫底であり、身を隠すことができる浮石が多くある場所を好む。そのような場所は、通常、木々がうっそうとしており、薄暗く、最高水温も約 22℃ と冷たい。産卵は雌 1 個体に対し雄 1~3 個体で、石の隙間で行われる (浅香・内山, 2017)。産卵期は 3~6 月の間に行われると思われる。水生昆虫などの小型底生動物を食べる。

【現在の生息状況／減少の要因】

分布する水域は広いものの、一つの生息地における個体数がきわめて少ないケースが多い。また、以前に生息していたものの、近年になって、生息の確認ができなくなった場所もある。道路、護岸、砂防堰などの工事の影響で、環境が変わると、すぐに減少してしまう。また、田畑や人工林の管理放棄によって起こる土壌表面浸食にも敏感で、とりわけ底質の変化に弱い。干ばつや集中豪雨などによる出水の影響も受けやすい。

【保全上の留意点】

開発による底質の変化に弱いため、三面コンクリート護岸化や U 字溝設置による生息地の改変は避ける。生息域を覆う樹木を伐採すると、日照の変化や、それに伴う水温上昇が生じるため、本種が減少しやすい。泥が生息域に流れ込まないようにすることや、勢いよく水が流れこまないようにすることも重要である。本種は、魚がいないと思われる場所でも生息していることがあるため、河川改修や森林管理の際には注意する。

【特記事項】

本種は、遺伝的にナガレホトケドジョウよりもホトケドジョウに近い種である (Miyazaki et al., 2011)。東三河地方では、カミナリドジョウやカミナリジゴなどと呼ばれている (森・浅香, 2008)。ホトケドジョウと同所的に生息することもある。

【引用文献】

- 浅香智也・内山りゅう, 2017. 愛知県豊川市の源流河川で観察されたトウカイナガレホトケドジョウ (*Lefua* sp.2) の産卵行動. 伊豆沼・内沼研究報告, 11: 17-24.
- 細谷和海, 2013. ドジョウ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, pp.328-334. 東海大学出版会, 神奈川.
- Miyazaki, J., M. Dobashi, T. Tamura, S. Beppu, T. Sakai, M. Mihara, K. Hosoya, 2011. Parallel evolution in eight-barbel loaches of the genus *Lefua* (Balitoridae, Cypriniformes) revealed by mitochondrial and nuclear DNA phylogenies. Mol Phylogent Evol 60: 416-427.
- 森 誠一・浅香智也, 2008. 愛知県東三河地方のホトケドジョウ類の地方名一生き物の多様性の保全一. 生き物文化誌ビオストーリー 9: 116-122.

【関連文献】

- 浅香智也, 2007. 飼育環境下における愛知県産ホトケドジョウ属魚類 2 種の高水温耐性. 魚類自然史研究会会報ボテジャコ, 12: 29-32.
- Ito, T., Hosoya, K., Miyazaki, J., 2019. *Lefua tokaiensis*, a new species of nemacheilid loach from central Japan (Teleostei: Nemacheilidae). *Ichthyol. Res.*: <https://link.springer.com/article/10.1007/s10228-019-00690-0>.
- 奥山誠一・丸山琢也・東城幸治・村岡敬子・宮崎淳一, 2007. 絶滅が危惧されているナガレホトケドジョウの保護のための生態学的調査. 山梨大学教育人間科学部紀要, 9: 38-46.
- 森澤貴之・浅香智也・奥山誠一・丸山琢也・田村敏雄・土橋学・西方陽祐・天野香織・宮崎淳一, 2009. 東海地方のナガレホトケドジョウの保護のための生態学調査と遺伝学的解析. 山梨大学教育人間科学部紀要, 11: 55-67.
- 小森綾奈・松岸あかね・五味愛子・中沢公土・浅香智也・宮崎淳一, 2010. ホトケドジョウ類の保護のための 3 年間にわたる現地調査の報告 (予報). 山梨大学教育人間科学部紀要, 13: 12-21.

(浅香智也)